

# 高校生価値意識調査 2019

予測困難なこれからの時代

## 独自性と自分軸を重視した価値意識 “自分のやりたい”を大切にしたい

池内摩耶 リクルート進学総研 研究員



**調査概要**

- 調査期間 2019年11月29日(金)～2019年11月30日(土)
- 調査方法 インターネット調査
- 調査対象 2019年11月現在、高校1年生～高校3年生で、大学・短期大学・専門学校いづれかへの進学を検討している男女。
- 有効回答数 600人

リクルート進学総研では、2007年から、高校生に価値観、将来観、ライフデザインなどを聞く、高校生価値意識調査を実施している。今年度は2019年11月時点で高校1～3年生の進学希望者を対象に、インターネットを通じて調査を行い、600名から回答を得た。

現在の高校1年生は、2003～2004年生まれ。彼らが最初に持った携帯電話はスマートフォン、リーマン

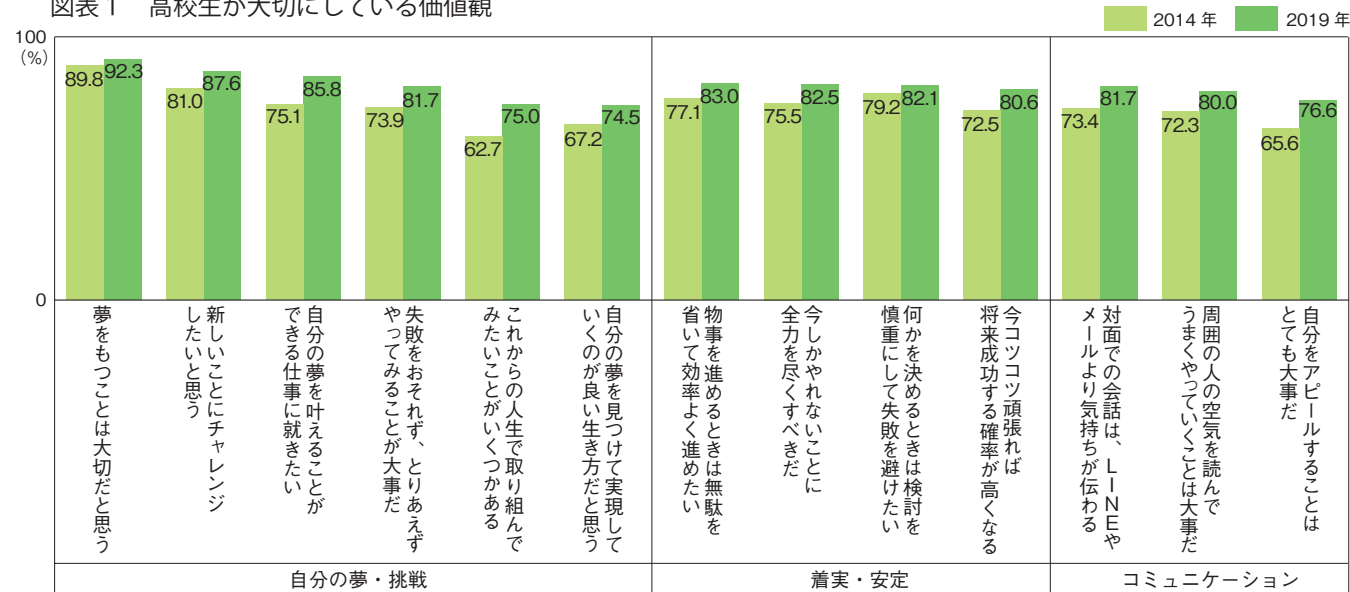
ショックは教科書で知る世代だ。グローバル化、AIの発達、VUCA、SDGsなど、今、将来社会を不安視する言葉があふれている。そんな先行き不透明な社会を彼らが日々何を思っているのか。夢・やりたいことだけではない、偏差値だけでもない、彼らの「大切にしているもの」は何か。民法改正により現在の高校1年生は約2年後、高校卒業時には成人として社会に飛び出し、成人として社会で扱

われるようになる。進路選択は、何かを捨てるのではなく、可能性を広げること。高校生の今のなかに、私たちが今の時代において「大切にすべきこと」も見えてくるのかも示れない。

“自分のやりたい”を大切に、独自性と自分軸を持つことを重視

高校生は何を大切に将来を思い描いているのだろうか(図表1)。

図表1 高校生が大切にしている価値観



92%が「夢をもつことは大切」、75%が「自分の夢を見つけて実現していくのが良い生き方」という価値観を素直に肯定。また、「新しいことにチャレンジしたい」は88%、「自分の夢を叶えることができる仕事に就きたい」は86%で、「失敗をおそれず、とりあえずやってみることが大事」が82%と自分のやりたいこと・夢を大切に考え、高校生のうちに新しいことに挑戦し、将来につなげていきたいという意思を持つ高校生が増えているようだ。夢だけを追いかけたいのではない。「今しかやれないことに全力を尽くす」83%、「今コツコツ頑張れば将来成功する確率が高くなる」81%。加えて、「自分をアピールすることはとても大事」77%といった、独自性と自分軸を持つことを半数以上の高校生が大事にしており、将来を見据えて行動している。

では、高校生がより重視するようになっていくのだろうか(図表2)。2014年から

2019年の経年変化で10pt以上上昇している項目を抜き出した。上昇幅トップの項目は「自分のやりたいことや夢があれば学歴は関係ない」(+17.2pt)、次いで「これからの人生で取り組みたいことがいくつかある」(+12.3pt)、「今が楽しければそれが一番」(+12.0pt)と続く。学歴に捉われず、やりたいこと・夢を大切に、コツコツと、試行錯誤しながら今やることをやる。そして、きたる将来に向けて取り組みたいことをいくつも膨らませる、自ら行動し続けることのできる世代なのだ。

その背景にあるものは何だろうか(図表5)。これまでの社会は「有名大学に入り、大企業に就職し、終身雇用のもとで働く」といった『単線型』キャリアこそが成功モデルだった。一方、これからの社会は将来を見通すことが難しく、正解のないVUCA Worldに突入し、『複線型』キャリアになっていくだろう。VUCA(ブーカ)とは、Volatility(不安定性)、Uncertainty

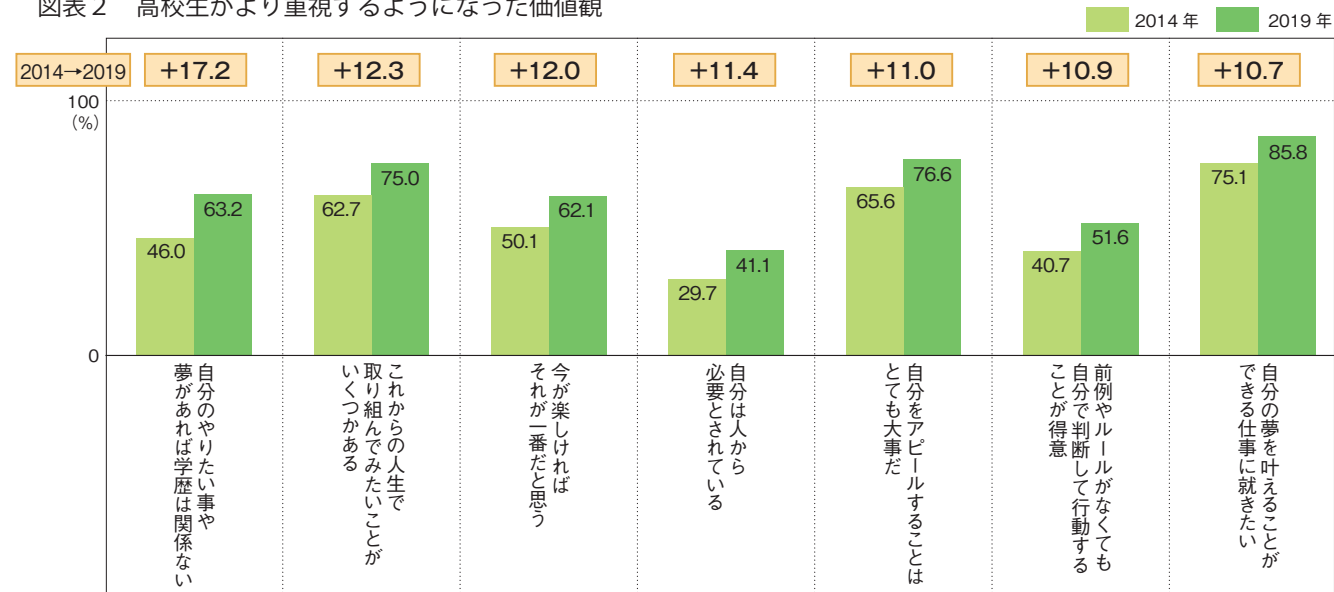
(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取った、2010年代に、世界のビジネス界で予測不可能なこれからの時代を表す言葉として使われるようになった略語である。「終身雇用」「年功序列」「生涯一企業」などの『単一価値観』中での成功モデルが崩れ、誰かが敷いたレールに乗ってればある程度の正解が得られていた時代は終わった。正解はなく、一人ひとりの価値観も異なるこれからの社会では、“1人で”ではなく、お互いを尊重し、意見をぶつけながら解を見いだしていくしかない。

このような社会背景もあり、高校生が自分のやりたいこと・夢を大切に、独自性や自分軸を持って生きていくことを保護者含め、社会全体が願っているのではないだろうか。

なりたい自分へ一直線。「プロ突進タイプ」が増加

本調査では、将来や進学に関する

図表2 高校生がより重視するようになった価値観



質問から5つの因子を分析し、その反応をもとに高校生を8つのクラスタータイプに分類した(図表3)。高校生のクラスター構成比の変化をみると(図表4)、2014年には25%しか存在しなかった「プロ突進タイプ」が2019年は34%に増加した。2014年にはほぼ同等22%だった、「自分探しタイプ」は2019年も22%と経年での変化はほぼなかった。一方、「好きなことを自由で楽しく、厳しい環境は苦手」「夢はなく勉強は嫌い」といった「好きエンジョイタイプ」「未成熟タイプ」は、2014年から2019年でほぼ半減している。今まで以上に社会変化

が加速度的に訪れ、不確実性の増す社会変化激しい今、目的を持って、将来に対しなりたい自分を大切に、自力で道を切り開いていきたい高校生が増えてきている。

そうはいても、やりたいことの見つけ方が分からず、一步踏み出せない高校生も多いだろう。そのような高校生にとっても踏み出すきっかけとなるような、「高等教育環境」の変化について次に紹介する。

「変わる」高校を取り巻く環境  
学びのきっかけは多様化

現在の高校生が置かれている環境

について、保護者の高校生時代と比較して少し触れておきたい(図表6)。まず、必要な資質についてだ。成長社会で高校生活を過ごした保護者は、早く効率的に正解に到達することが求められ、『情報処理力』が重要視されてきた。しかし、時代が成熟社会に移り変わり、ライフスタイルの多様化と社会の複雑化が進む現代に生きる高校生は知識・技能を習得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を活かした『情報編集力』が重要になってきている。つまり「みんな一緒」から「それぞれ一人ひとり」という変化だ。それに伴い、高等教

図表3 高校生の進学や将来に対する考え方クラスター8タイプ

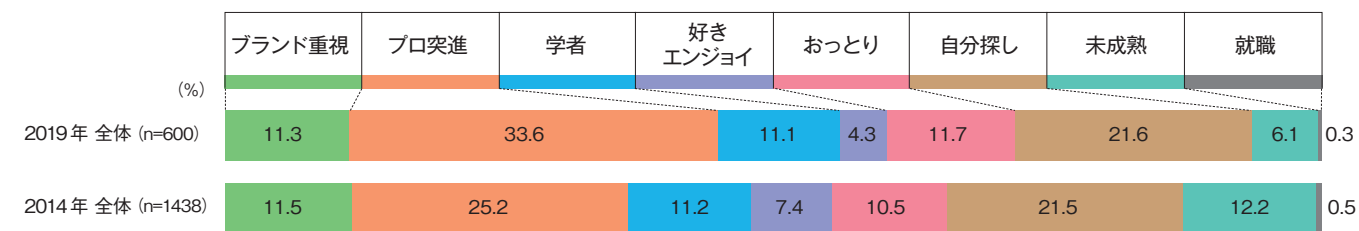
5つの因子反応から8タイプに  
将来や進学に関する質問をした結果、5つの因子が抽出され、その因子への反応をもとに、高校生を8つのタイプに分類した。

●重視項目因子

- ・学生生活謳歌型因子 勉強以外の学びや学生生活、可能性の広がりを重視
- ・まじめ勉強型因子 学問や研究を充実させることや得意分野を作ることを重視
- ・地位上昇志向型因子 大きな成功、有名企業への就職、出世や富などステータスを重視
- ・夢・興味を仕事に型因子 夢をかええる、好きなことや趣味を仕事にすることを重視
- ・ほどほど生活型因子 高望みせず、そこそこ楽しい生活ができることを重視

Type 1	Type 2	Type 3	Type 4	Type 5	Type 6	Type 7	Type 8
ブランド重視タイプ	プロ突進タイプ	学者タイプ	好きエンジョイタイプ	おっとりタイプ	自分探しタイプ	未成熟タイプ	就職タイプ
偏差値の高い学校に入って有名企業に就職したい	なりたい自分へ一直線。自力で道を切り開き成功したい	コツコツ勉強して得意分野を作りその道の専門家に	がつがつせずマイペースで好きなことを続けたい	勉強も遊びもバランスよく。高望みせず自分の世界を大切に	とりあえず大学に行って自分の可能性を広げたい	夢はなく勉強は嫌い。今、楽しければOK	手に職をつけて就職した。学校に行く必要はない
今の目標は少しでも偏差値の高い大学に行くこと。有名企業に入り、出世することが幸せな生活の基盤になると考えている。流行に敏感で、進学情報の収集も活発。	なりたい自分が明確。夢実現のための努力を厭わず、将来の成功を切望。ネットワークも広く、志望業界で働いている先輩からリアルな情報を手に入れ、進路選択に対する情熱がある。	進学したらコツコツ勉強して知識や技術を身につけ、将来の厳しい競争社会を生き残りたいと考える堅実派。早くから各学校や学部の詳しい比較検討を進めている。	将来会社に入ったり出世することに興味がなく、今「好きなこと」を手がかりに進学先を考える。ただし厳しい環境は苦手で、自由楽しくやりたい。交友関係が広い。	競争が苦手で、上昇志向は低め。家族など身近な人達を大事にしており、地元志向も強い。小規模で居心地のよい雰囲気、資格なども取得したいと考えている。	将来のことは先延ばし。8割弱が大学・短大に進学、「入ってから夢を見つけない」と考える。偏差値や入試方法の基準しかもたないで、学校側の「なぜよいか」というレコメンドを期待。	将来の夢も、進学先へのこだわりもなく、「入れればどこでもいい」という感覚で進学する。自宅に届く進学情報誌など受け身でも触れられる情報に影響される。	学歴や偏差値が高いことに興味がなく、大学に行くことに関心がない。自分のやりたいことや夢を大切に、ものごとの選んだり決める時は直感で決めることが多い。身近な人からの情報に影響される。

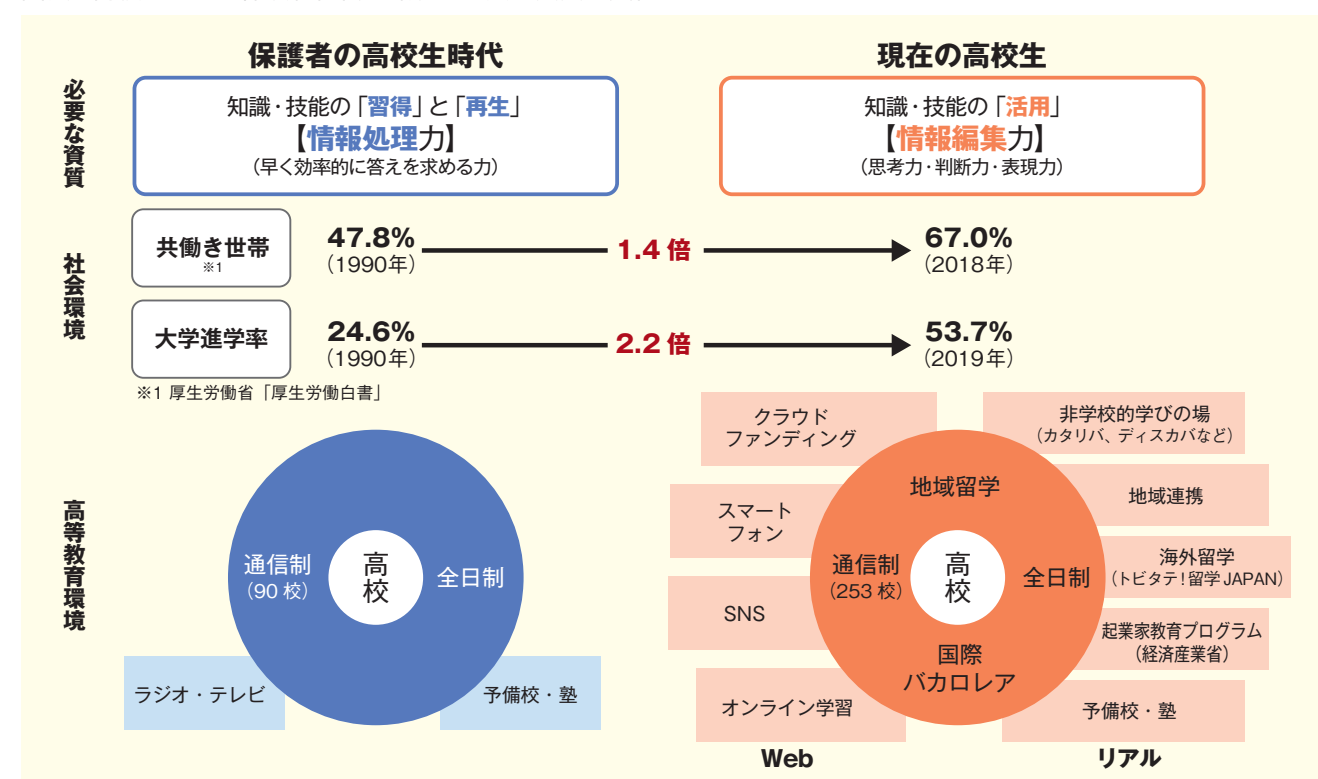
図表4 高校生のクラスター構成比の経年変化



図表5 社会環境の変化とキャリア観



図表6 高校生とその保護者世代の環境と必要な資質の変化



育環境も大きく変わってきた。保護者が高校生だった時は、学校外の学びの場といえば塾かラジオ・テレビくらいであったと思う。一方、現在の高校生は高校だけでなく、学校の枠を越えた活動を企業・行政や団体が支援する環境整備が進んでいる。都道府県の枠を越え公立高校へ進学する地域留学、「ディスカバ」のよ

うに新しい自分を見つけるための非学校的学びの場、やりたいことを実現するために自ら資金調達するクラウドファンディングなど、「自分のやりたい」を大切に、やったことのないことにも挑戦しやすくなっている。様々な人と交わりながら、自分にとって未知のことにチャレンジすることによって『情報編集力』も高まっ

ていくのではないだろうか。これからの社会は何が起きるか分からないからこそ、「自分は何ができるようになるか」「社会にどんな貢献ができるか」といった自分の可能性をワクワクした気持ちで柔軟に考えられる人材が求められている。

※2 桜美林大学が運営する、高校生のキャリア支援を目的としたプロジェクト

ワクワクする進路選び  
挑戦と失敗をサポート

誰も正解を持ち合わせていない、何の保証もない未来で生きていく高校生。ワクワクした気持ちを抱いて、「自分のやりたい」という意志を貫き通して進んでいけるようサポートする“学びの場”が広がりを見せている(図表7)。探究学習が推進され、特色あるカリキュラムで出る杭をサポートする高校や、高校の枠を越えて主体性や個性を活かせる場が増えている。

どの“学びの場”にも共通していることは、未経験なことを提供し挑戦と失敗を応援していること、そしてその挑戦と失敗のドラマが多くの人に共有さ

れる仕掛けになっていることだ。“1人で”ではなく“みんなで”共有することで、失敗も楽しみながら、自ら学び、自ら行動し、失敗から学び、次のチャレンジに繋げていく。そのような環境に飛び込んでいる高校生に話を聞くと、「自ら動くことで自分が苦手なことが明確になるからうれしい」「ワクワクした気持ちで湧きだす」「やりたいで動ける高校生活」とイキイキとした表情で進路選びについて語ってくれる(図表8)。

彼らの進路選びのポイントを探ると①「学び」の機会をきっかけに自ら動き出す。②同質化ではなく、独自性を重視し、自分軸を持っている。③高校の枠を越えた自主活動に積極的。という共通点が見られた。このようにワクワク

クするモチベーションを大切にした進路選びをリクルート進学総研では「ワクワクモチ進路」と名付けた。これからは、高校の授業や高校外での“学びの場”をキッカケに、“自分のやりたい”ことを重視し、学ぶ環境を積極的に選択する生徒が増加し、出る杭は打たれる、ではなく出る杭を共に育み・伸ばす教育や進路選びがトレンドになるだろう。

最後に「とにかく早く“自分のやりたいこと”を大小問わず見つけてほしい」と、高校生に伝えたい。“やりたいこと”は大人が押しつけることができない。“向いている、向いていない”“偏差値が合っている、合っていない”という話とは違い、“やりたいか、やりたくないか”。

図表7 高校生をサポートする“学びの場”の広がり事例

学びの場  
高等学校編 地域みらい留学  
(地元外進学)

公立高校進学における、新たな選択肢として、都道府県の枠を越え、北海道から沖縄まで各地域にある魅力的な学校がそこでしかできない体験と新しいチャレンジを提供している(2020年1月時点55校)。そこにしかない魅力ある環境体験と教育内容でグローバル人材を育成している。島根県立隠岐島前高校「魅力化プロジェクト」や島根県立津和野高校「T-PLAN」など、その地域の特性を活かした探究学習を中心とした“ならば”の教育コンテンツが魅力となっている。



学びの場  
高等学校  
枠外編 全国高校生  
マイプロジェクト実行委員会

高校生が身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ実行することを通じて学ぶ「実践型探究学習プログラム(PBL)」を提供。小さくても実際に起こす「アクション」と、プロジェクトに対する「主体性」が、進路選択にも大きく寄与している。プロジェクトでの学びを振り返る「マイプロジェクトアワード(文部科学省後援)」を日本全国で開催。7回目となる2019年度は、2,900プロジェクト、9,000名の高校生が参加。3/28-29には東京にて、全国大会が開催される。



学びの場  
SNS  
活用編 CAMPFIRE社  
「クラウドファンディング」

「若さを理由に、夢を諦めてはいけない」をスローガンに、TwitterなどのSNSのつながりでお金を集めることができるフレンドファンディングアプリpolcaの開発など、若者の夢や挑戦を応援する資金調達の仕組みを提供している。年間9,000件プロジェクトのうち、10代起案プロジェクトは約600件。高校・大学のオフィシャルサポーターが増えており、札幌新陽高校・鹿児島純心女子中学・高校など4校が参加している(2020年1月時点)。



集まった金額 1,035,000円(目標600,000円)

目標達成率 172% 支援者数 105人

女子高生の挑戦。屋根のない油津商店街アーケードをカラフルな傘で彩りたい!

これは本人にしか決められないことだからだ。それをきっかけに自ら動き出し、“やりたいこと”にのめり込んでいくことによって、自分の強みや独自性、リーダーシップが育まれ、それを軸に“やりたいこと”が広がり加速していく。そのように視野が広がり、新たに“やりたいこと”に出会いチャレンジすることを

繰り返すことによって、なりたい自分が明確になっていくのではないだろうか。

本当にそこまで“やりたいこと”を追求している高校生がいるのかと思われるかもしれないが、高校生をサポートする“学びの場”は数千~数万人の高校生が参加する場となり、ご紹介したような高校生と出会うことは珍しいことではなく

なっている。高校教育の変化により、“自分のやりたい”スイッチの入った高校生が出願層の主流になってくるだろう。繰り返しとなるが、従来のように偏差値・学歴一辺倒ではなく、“自分のやりたいこと”を軸に進学先を見極める高校生に向けて、特色ある教育コンテンツの打ち出しと磨きこみは緊要である。

図表8 “自分のやりたい”を大切に進路を選択した高校生

高校生  
Voice  
地元以外の  
地域への  
進学

地域の人や津和野にきた人を繋ぎ、新しい価値観を知れるのが楽しい

島根県立津和野高等学校(兵庫県出身) 高校2年生  
池田 詩織さん



高校との出会い・キッカケ

テレビ番組で知りました。田舎生活への憧れもあり、“楽しそう!”と感じ、中学校2年生の時、バスツアーで数校見学してここで学びたいと強く思いました。親の反対もあり悩みましたが、「ヒトと違う選択をしてチャレンジしたい」「津和野の街並みと教育カリキュラムで学びたい」と決心し、親からは英検®合格などいくつかのハードルを設けられましたが、無事クリアし、入学することができました!

ワクワクが止まらない

津和野高校の生徒がなりたい自分を見つけるために、『アスギミック\*3』という津和野町に視察へ来た方々等との座談会を企画しています。多様なキャリア観をうかがい、自分にない考えを学んだり、人を繋げる場の設計は楽しいです。「私は人と繋がり、繋げていくことが好きなんだ」と感じます。自ら動くことで、自分を棚おろしでき、苦しいことが明確になることで次のチャレンジに繋がるのもうれしいです。

これから取り組みたいこと

取り組んでいることを、学内外に発信していくためのWebプラットフォームを作り、新しい価値観が生まれる場所を作りたい。資金調達はクラウドファンディングで集めようと考えており、この取り組みでマイプロジェクトアワード(NPO法人カタリバ主催)に挑戦したいです。活動を通して社会学に興味を湧いてきたので、卒業後の進路は学問軸で探したいです。

\*3 「アス」は「明日」「私たち」、『ギミック』は「仕掛け」という意味

高校生  
Voice  
通信制高校へ  
の進学

やりたい気持ちがあれば、いくらでもキッカケはある

N高等学校(神奈川県出身) 高校2年生  
櫻井 竹琉(たける)さん



高校との出会い・キッカケ

SNSで見つけたのがN高校でした。通信制高校は調べていたけどN高校は知らなかった。ほかの通信制とは違い、「新しいことにチャレンジできるかも!」とワクワクした気持ちが湧きだして、即断しました。周囲は誰も進学してない、新しい学校・珍しい選択であることに期待もありました。時間の使い方がフレキシブルなので、「やりたいことを探す時間に使いたい」と思って入学しました。

ワクワクが止まらない

目の不自由な人と一緒に楽しむeスポーツ(ブラインドeスポーツ)を通して、視覚障害者と健常者との相互理解を深めることをテーマとしたプロジェクト活動をしています。平日も時間がフレキシブルに使えるので、プロジェクトを支援してほしい会社や先生を訪問し、提案でき、プロジェクトを自ら設計している感覚が楽しい。幼少期を知っている先生からは「やりたいで動ける高校生活が送れているな」と、僕にとって最高のほめ言葉をもらいました。

これから取り組みたいこと

現在取り組んでいるプロジェクトを、様々な方の協力を仰ぎながら将来に繋がるような形に昇華していきたいです。N高校は、多様な価値観を持つ在校生との出会いや担任の濃いフォロー、充実した課外プログラム環境があり、刺激にあふれ、世界が広がります。やりたい気持ちを大切に成長の機会を逃さず挑戦することで、自分の強みを磨いていきたいです。卒業後は、自分で学びたいことを自分で選択できるような大学に進学したいので探しています。